

vol. 1
June, 2017

東京外国語大学文書館報

–Tokyo University of Foreign Studies Archives Newsletter–

Contents

東京外国語大学文書館報創刊にあたって……1 頁
所蔵資料の紹介 ……………1 頁

国立公文書館等指定 1 年の経過報告………2 頁
東京外国語大学文書館日誌抄録………3 頁



[写真]東京外国語学校音声学実験室にて(千葉勉は右から4番目)

戦前の東京外国語学校には、世界水準の音声学実験室がありました。日本における音声学実験室の興りは、1921年に兼弘正雄(英語音声学)が大阪高等商業学校に建設したものが第1号とされ、そうした関西の動向が東京外国語学校関係者の関心を刺激し、1927年頃には学内に実験音声学を進める機運が生まれていたといえます。翌1928年、東京外国語学校に文部省特別経費が計上されると、校長 長屋順耳は音声学実験室の設置に踏み切り、1929年より千葉勉(写真右から3番目)を責任者とする日本2番目の音声学実験室が設置されました。

実験室にはX線撮影装置、カイモグラフ、マイクロフォン、電磁オシログラフなど世界最先端の技術水準の機材が並び、日本放送協会(NHK)から録音機貸与の申込もあったそうです。実験室において1934年から1939年の間に進められた実験の成果は、『母音論』(The Vowel, Its Nature and Structure. Tokyo-Kaiseikan, 1941)としてまとめられ、今日に至るまで言語学・音声学の古典とされています。

『東京外国語大学文書館報』創刊にあたって ～文書館の5年を振り返る～

吉田ゆり子(東京外国語大学文書館長)

この度、大学文書館の活動を定期的に報告するために、『東京外国語大学文書館報』を発刊する運びとなりました。大学文書館ではこれまでホームページと Facebook を通じて活動報告を行っていましたが、これからはウェブ上での広報に加えて、館報の刊行を通じて、文書館の日々の活動を記録に留めながら広報して行ければと存じます。

東京外国語大学文書館が2012年4月に発足してから早くも5年の月日が経ちました。この間、大学文書館では学内外の皆様の協力を得て多岐にわたる活動を実施して参りました。

とくに、本学文書館は大学史編纂に際し収集蓄積された資料群の活用と公文書管理法への対応を念頭に、活動を開始しました。

すでに、1990年代に大学史編纂を行い『東京外国語大学史』を刊行しておりました。編纂過程で収集した資料群を活用し、時代時代の政治動向の影響を受けた本学の歴史を、学生や卒業生、一般市民の方々にわかりやすく紹介できれば、と考えておりました。幸い文書館発足直後の2012年度には、「百周年記念教育研究基金」の助成を受け常設展示場を整備し、2014年度には大学史授業「近代日本のなかの東京外国語大学」も開講されました。こうした活動が卒業生や学内教職員からの資料寄贈・情報提供の呼び水となっていることもあり、積極的な展示・教育活動は大学文書館の活動の柱となっております。

他方で、公文書管理法への対応については、「国立公文書館等」指定を念頭に準備を推し進めて参りました。2011年4月の法施行以降、国立大学の法人文書は、保存年限

満了後には廃棄あるいは国立公文書館へ移管されることとなり、大学の文書を自由に活用できなくなるとの危機感を持って指定施設の整備を目指しておりました。国からの財政的援助が一切ない中での体制整備は、本学のような小規模大学には荷が重いのではないかとの声もありましたが、大学の理解を得て、収蔵庫整備や閲覧システムの確立など年々の着実に体制整備を進めていたことが実を結び、2016年4月に、国立大学で10施設目の指定を受けるに至りました。

さて本学は、これから2023年の創立150周年に向け年史編纂事業に着手致します。そうした時、本学文書館がこれまでの5年間に蓄積してきた資料の収集や活用のノウハウは、大学史編纂や関係事業を推進していくこれからの5年間に大いに活きるものと思います。またこの5年間の展示活動などにより、文書館の認知度も徐々に高まり、文書館活動の幅は広がってきたと言えます。

文書館には大学の100年を越す歴史的資料が蓄積されておりますが、文書館にはそれらを10年、100年と将来に渡って伝え残していく責務がございます。そのような重大な責務を持つ文書館もまた組織として継続して行かねばなりません。よって、今後、大学文書館発足10年目に向けて、長期的視野に立った運営体制の確立を目指して行ければと存じます。

この度刊行されます『大学文書館報』が、そうした文書館の活動を記録し、将来に生きる場となることを祈念してやみません。大学文書館はこれからも一層改革の歩みを進めて行ければと存じます。

◆所蔵資料の紹介 ～千葉勉関係資料群～◆

2016年度大学文書館では千葉勉に関する講演会・企画展を開催しました。講演会では Michael Ashby 氏(ロンドン大学、UCL)により、ロンドン大学で発見された戦前の東京外国語学校音声学実験室の実験成果を元にした口腔図(発声時の口から喉の形状の変化を表した図、実物は幻灯機映写用のガラス板)が紹介されるとともに、同資料の本学への寄贈式典が挙行されました。約80年の時を経て日本に帰還した資料(右写真)は、企画展(本学及び日本音声学会大会で臨時開催)で紹介され、現在大学文書館に所蔵されています。

また、企画展開催後、千葉勉ご遺族の那珂夫妻より、家族に保管されてきた千葉勉関係資料群も併せて寄贈されました。本資料群は現在デジタル化を進め、公開に向けた準備中です。



国立公文書館等指定 1 年目の経過報告～法人文書「移管/廃棄」基準の検討～

倉方慶明(東京外国語大学文書館 研究員)

本学文書館は 2016 年 4 月 1 日に国立公文書館等の指定を受け、本学の法人文書ファイルを文書館に移管することが可能となりました。指定 1 年目の 2016 年度においては、移管は実施せず、「移管/廃棄」基準の検討を中心に、移管体制の整備を進めることとなりました。現状、最終的な基準策定に至っておらず、道半ばではありますが、その検討経過を報告します。

1. 指定前の「移管」構想

本学では、国立公文書館等の指定審査時から指定後の移管フローについて検討を進め、「移管(案)フロー」をまとめていました(フロー案を含む指定審査時の関係資料については報告書『東京外国語大学文書館「国立公文書館等」指定関係資料集』を御参照下さい。)。その案は主に法人文書ファイル管理簿ベースで移管対象を原課と協議し、評価選別を進めるもので、先行する指定施設の移管事例を踏まえ作成しました。案については、毎年度本学で実施している法人文書管理状況等の調査の折に、現課への説明と意見聴取を進めていました。

移管対象の判断基準(評価選別基準)についても、法人文書管理規程の改正を視野に検討を進めていました。特に現行の規程別表第 2「保存期間満了時の措置の設定基準」において、大学文書館に移管する文書の「業務の区分」とされているのは、「組織の存立に関する重要な経緯」に限られており、本学にとって重要な歴史公文書等とは何か、大学文書館の国立公文書館等指定を機に再度検討し直す必要がありました。また規程別表については、各課からも抽象的で解かりにくいとの指摘もあり、原課の負担軽減と今後の移管実務の効率化を目的に、その改正を検討していました。

しかし、指定審査の交渉の中で内閣府より、既存の指定施設の移管実態について、指定以前に文書館の活動実績の歴史がある機関については移管のフローが機能しているが、新設の機関については流れが上手くいっていない実態もあり、「当座の間、文書の廃棄を停止し、移管基準については 1～2 年かけて作成してはどうか」との提案があり、これを受け本学では指定後 1～2 年間の法人文書廃棄を一時停止し、移管基準策定も含め腰を据えて体制整備を進めることとなりました。

2. 法人文書廃棄の 1 年間延長

法人文書廃棄の一時停止には、保存年限の延長手続きが必要です。延長については「公文書管理法施行令第 9 条 2 項」に定められ、延長する場合には「延長する期間及び延長の理由を内閣総理大臣に報告しなければならない」とされ、毎年度 7 月頃までに内閣府への報告が義務づけられて

います¹。他方で実務上延長措置には、①文書廃棄の業務フローの停止、②延長分の保管スペース確保が必要であり、全学的な理解・協力が不可欠です。そのため、各部局長が委員を務める大学文書館運営委員会(7月 20 日)において検討を行い、全学的なコンセンサス形成を進めました。

結果、1 年間の法人文書保存年限延長と、法人文書管理体制の実態調査を行い、「移管/廃棄基準」を検討することが決まりました。議論の過程では、①小規模大学の本学では、収蔵スペース・運用コストに限りがあることから、他大学の事例を参照しつつ効率的作業を行うこと、②教職員の個人情報等を含む文書については事前に対象から除外することが基本方針となりました。



[写真]仮移管された法人文書

3. 仮移管と実態調査

実態調査に先立ち、事務局(課・室)に対し教職員の人事情報を含む文書の整理(除外)と、廃棄簿に記載されている法人文書ファイルの存否確認を依頼しました(7 月-8 月)。また、延長分の大半については、実態調査の効率を考慮し、事前に大学文書館収蔵庫に仮移管しました(9 月 12 日、総務企画課、研究協力課、学術情報課、情報企画室、国際化拠点室、留学生課より仮移管)。幸い法人文書保管用に確保・整備した収蔵スペースがあったため、仮移管が可能でした。

9 月 14 日、大学文書館員による法人文書ファイルの実態調査を実施し、本部管理棟・研究講義棟・アジアアフリカ言語文化研究所事務室・留学生日本語教育センター事務室といった学内に保管されている法人文書保管状況の確認と、本年度廃棄予定分の概要について担当者から聞き取り調査が行われました。現在、仮移管された延長分の法人文書を検討し、2017 年度中の決定を目指し「移管/廃棄」基準(案)の策定を進めています。

¹ 延長手続きに当たっては内閣府公文書管理課に法的根拠を確認するとともに、他大学の延長状況も確認しました。『平成 26 年度における公文書等の管理等の状況について』では、11 大学が「調査研究」・「その他」を理由に延長を報告しています。

東京外国語大学文書館日誌抄録(2016年4月1日～2017年3月31日)

4.1(金)	国立公文書館等指定、利用申請様式ウェブ公開	9.13(火)	日新寮聞き取り調査
4.12(火)	利用等規程のウェブ公開	9.14(水)	法人文書ファイルの実態調査
4.20(水)	企画展「学内競漕大会の歴史 2016」開催(6.30迄)	9.15(木)	一橋大学附属図書館連携企画展打合せ
4.21(木)	多摩地区文書館勉強会(於本学)開催、お茶の水女子大学見学	9.16(金)	朝日新聞(多摩版)ほか企画展記事掲載 共催企画展「千葉勉と東京外国語学校」 (日本音声学会大会、於早稲田大学)
4.23(土)	日本アーカイブズ学会大会(於本学)開催	9.17(土)	企画展「千葉勉と東京外国語学校」開催 (10.6迄)、講演会「千葉勉と東京外国語学校」 (Michael Ashby 講演「Preserving some lost work of Tsutomu Chiba (1883-1959)」)及び「千葉勉 X 線口腔図寄贈式典」挙行
-4.24(日)		9.20(月)	お茶の水女子大学(1名)展示説明
5.6(金)	『文教速報』に「国立公文書館等指定」記事掲載	9.26(月)	授業「近代日本のなかの東京外国語大学」開講(2017.1.18迄の水3時限、館員ほか担当)
5.24(火)	オリンピック通訳聞き取り調査・寄託資料返却	10.5(水)	企画展「日新寮、その歴史」開催(10.31迄、授業「近代日本のなかの東京外国語大学」アクティブラーニング対象)
5.30(月)	学長裁量経費に係るヒアリング	10.7(金)	授業「近代日本のなかの東京外国語大学」内講演会「日新寮の思い出」開催
6.2(土)	アラムナイ事業室会議(ホームカミングデイ)出席	10.26(水)	日新寮記念碑除幕式・ホームカミングデイ出席(吉田館長・倉方研究員)、講演「日新寮、その歴史」(倉方研究員)
6.4(土)	府中市ふるさと歴史館調査(目録作成)	10.29(土)	連携企画展「東京外国語大学と一橋大学」開催(2017.1.31迄)
6.10(金)	全国公文書館長会議出席	11.1(火)	府中市連携展示資料搬入
6.11(土)	府中市ふるさと歴史館調査(目録作成)	11.14(月)	授業「アーカイブズ学入門」文書館見学
6.15(金)	一橋大学附属図書館連携企画展打合せ	11.16(水)	大学文書館運営委員会
6.17(金)	府中市ふるさと歴史館調査(目録作成)	11.17(木)	府中市連携企画展「府中市のなかの東京外国語大学」開催(2017.1.31迄)、講演「一橋大学と東京外国語大学」(於:一橋大学)に講師(倉方研究員)派遣
6.22(水)	多摩地区文書館勉強会(東京学芸大)出席	11.18(金)	
6.24(金)	府中市ふるさと歴史館調査(目録作成)	11.19(土)	外語祭期間中、府中市協力者とともに展示説明(11.20、11.23も同様)
7.2(土)	府中市ふるさと歴史館調査(目録作成)	12.9(金)	府中市史編さん近世史部会関係者展示説明
7.7(木)	日新寮アーカイブズをつくる会資料寄贈・打合せ	12.20(火)	学内教職員展示説明
7.8(金)	企画展「1964年 東京オリンピックと東京外国語大学の学生たち」開催(9.17迄)	1.12(木)	日本文書マネジメント協会取材
7.9(土)	府中市ふるさと歴史館調査(目録作成)	1.23(月)	府中行政文書受託事業(第2回集中調査、2.10迄(2.1及び土日を除く))
7.11(月)	文書館運営委員会	-2.10(金)	府中市ふるさと歴史館調査(目録確認)
7.12(火)	学内関係者文書館見学会	2.14(火)	府中市ふるさと歴史館調査(目録確認)、展示場整備(紫外線・熱遮断フィルム)
7.20(水)	第3回関東地区国立大学文書館情報交換会(於本学)	2.17(金)	展示場整備(ロールスクリーン)
7.24(月)	府中行政文書受託事業(第1回集中調査前半、土日を除く)	2.20(月)	都内12大学監事他展示説明
-8.5(金)	千葉勉企画展打合せ(上智大学音声学研究室)	2.22(水)	オリンピック聞き取り調査
8.10(水)	大学夏期一斉休業・臨時休館	2.24(金)	文書館会議(第22回、メール審議)
-8.15(月)		3.15(水)	京都大学大学文書館見学・臨時休館
8.17(水)	森田俊男様資料群仮移管	3.16(木)	特定歴史公文書等目録ウェブ公開
8.22(月)	府中行政文書受託事業(第1回集中調査後半、9.2迄(8.31及び土日を除く))	3.30(水)	大学文書館報告書「東京外国語大学文書館国立公文書館等指定関係資料集」刊行
-9.2(金)		3.31(木)	
9.2(金)	益子教授より千葉勉関係資料を貸借、西ヶ原時代の音声学実験室に関する聞き取り調査		
9.5(月)	日新寮聞き取り調査		
9.6(火)	日新寮聞き取り調査		
9.7(水)	日新寮聞き取り調査		
9.8(木)	日新寮聞き取り調査		
9.12(月)	2015年度保存年限満了分法人文書ファイルの文書館への仮移管(総務企画課、研究協力課、学術情報課、情報企画室、国際化拠点室、留学生課)、日新寮聞き取り調査		

東京外国語大学文書館報 第1号 2017年6月30日発行

編集・発行 東京外国語大学文書館

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 TEL 042-330-5842

E-mail tufsarchives@tufs.ac.jp

URL <http://www.tufs.ac.jp/common/archives/index.html>